

# 日本語の雑談の談話における 話題展開機能と型

河内 彩香

キーワード

話題展開機能・話題開始の型・話段・話段区分調査・提題表現

## 1. はじめに

日本語の教科書には、勧誘や依頼といった状況に基づいた会話は多く扱われているが、雑談の談話の展開を指導したものは少ない<sup>1)</sup>。実際の談話、特に雑談は、話題は次々に展開していくものであり、話題の展開を理解することができなければ、コミュニケーションに支障をきたすものと思われる。日本語学習者は、「あ、〇〇さん」といった呼びかけを多用して、話題展開をすることがある。これは、突然思い出して話題を転換する場面など、使用する状況が限られるものである。また、雑談は、日本で生活する学習者が周囲の人々と親しくなる上で不可欠のものであり、会話教育の中で雑談の話題展開の指導をする必要があると思われる。

本稿では、日本語教育における話題展開の指導のための基礎的研究として、親しい友人関係にある日本語母語話者同士の雑談の談話における話題展開機能と話題開始の型を考察することを目的とする。『文化中級日本語Ⅰ』は、雑談における話題展開を取り上げているが、相手の提示した話題に関係あることの中で話題を探す話題展開のみが扱われている。本稿では、前に話されている話題とは関係のない、新しい話題を開始するときの方が型を用いる必要があるのではないかという仮説をたてて、「話題開始の型」を分析する。

本稿の分析観点は、以下の3点である。

1. 雑談の談話2資料の話段区分調査に基づいて認定された話段の内部では、話題がどのように継続されているか。
2. 「大話段」、「話段」、「小話段」には、どのような話題展開機能が見られるか。
3. 「a2話を再び始める機能」がある「大話段」、「話段」、「小話段」開始部にはどのような話題開始の型が見られるか。

## 2. 先行研究

南(1981)は、6つの作業基準を設けて、「書きことばにおける段落にあたるもの」と

しての「談話」という単位を認定し、話題の推移を「接続の型」と「連鎖の型」という、2つの観点から分析している。「接続の型」では、「連続」と「断絶」の2つの型を区別し、さらに細分している。

また、南（1983）は、「談話」を「会話のまとまり」と改称して、8種の単位認定の手がかりを挙げている。南（1987）は、単位認定の手がかりを若干変更し、「談話の要素」10種と「談話の全体的構造の型」とを挙げている<sup>2)</sup>。

佐久間（1987）は、市川（1978）の「文段」に相当する「話し言葉の文章の部分」としての「話段」を提唱し、「文段」と「話段」の総称として佐久間（1992）で「段」と改称している。さらに、「提題表現」を「文の主題を表す言語形式全般をまとめたもの」と定義し、文段の小主題による統括の一部を担う提題表現は、文章の冒頭や文段の話題転換の箇所、新情報の導入をする機能が多かったと結論づけている<sup>3)</sup>。

ザトラウスキー（1993）は、「話段」を参加者の目的によって決まるものとし、勧誘の談話の構造を分析している。鈴木（1995）は、対話の「話段」認定のために「内容区分調査」を行ない、さらに、話段開始部・終了部に見られる形態の特徴を分析している。中井（2003）は、日本語母語話者同士、母語話者と非母語話者の初対面の会話における開始部に見られる言語的要素の分析をしている。

また、佐久間（1990）は「接続表現にかかわる中心文の機能」3類10種を設けているが、佐久間（2002）では3類14種の「文脈展開機能」に分類を改め、接続表現の文脈展開機能を分類している。「文脈展開機能」は「相手に伝えようとする話を始めて、続け、終えるという文章・談話の話題展開機能である」と定義されている。本稿では、「話題展開機能」として佐久間（2002）の「文脈展開機能」の分類を用いることにする。

### 3. 本稿における「話題」の概念規定

本稿における「話題」の定義は、「内容のまとまり」であるとする。「最小の話題が一对の『提題表現』と『叙述表現』からなる」という佐久間（2002: 167）の説に従い、提題表現で取りあげられるものが「最小の話題」であり、「最小の話題」の連鎖が話題のまとまりを成して、そのまとまりが「話段」と考える。

### 4. 分析対象と分析方法

本稿では、親しい友人同士の雑談の談話2資料を分析対象とする。〔資料1〕は同級生である20代男性2人の雑談（20分、767発話）、〔資料2〕は同じサークルに所属した20代女性3人の雑談（20分、1,121発話）である<sup>4)</sup>。「30分ぐらい、自由に話してください」という指示を与え、録音・録画した。

「話段」の認定方法として、雑談の参加者を含めた8人の被調査者にビデオを見た上で、文字化資料<sup>5)</sup>を内容のまとまりに区切ってもらい、各区分に話題のタイトルをつけてもらう「話段区分調査」を行なった<sup>6)</sup>。この調査の結果と内容、形態<sup>7)</sup>に基づいて、仮説的単位として、「大話段」、「話段」、「小話段」という3段階の単位を認定した。話段区分調査の指摘人数が7、8人の大きさの区分を「話段」と認定した<sup>8)</sup>。その下位区分を「小話段」、

隣接する「話段」に関連性が見出せるもので、1つにつなげることが可能なものを「大話段」と認定し、それぞれ通し番号をふった。

次に、雑談の参加者はどのように話題を始め、続けて、終わるのかを見るために、「話題展開機能」をラベリングし、先行話段と後続話段がどのように展開しているのかを調べた。さらに、1つの話段の内部では、話題がどのように展開しているかを考察した。話段の内部の考察に際しては、提題表現の分析を行った。提題表現で取りあげられた語句が反復して取り上げられていれば、同一の話題が継続していると見なした。略題表現は、叙述表現との対応関係から想定した。

## 5. 分析結果

### 5.1. 話段区分調査の結果と話段の認定結果

雑談の参加者を含む8人の被調査者<sup>9)</sup>に話段区分調査を行なった結果、【表1】のような被調査者の区分数と1区分平均発話数が得られた。

〔資料1〕の1区分平均発話数の全体平均は32.9発話なのに対して、〔資料2〕は68.6発話である。〔資料1〕の雑談の談話の方が、話題が多く提示され、〔資料2〕の雑談の談話は、〔資料1〕よりも1つの話題が長く継続されていたことがわかる。参加者が3人の〔資料2〕では、1人の実質的発話に対して、残りの2人がそれぞれあいづちをうつことが多く、参加者が2人の〔資料1〕よりも発話数が多くなっている。〔資料1〕と〔資料2〕の

【表1】被調査者の指摘区分数と1区分平均発話数

〔資料1〕 男性2人の雑談 (20分 767発話)

被調査者	1	2	3	4	5	6	7	8	平均
	区分作業者					参加者			
	a	b	c	d	e	g	F	U	
被調査者の区分数	19	22	35	36	17 (20)	26	19	26	25.0 (25.4)
1区分平均発話数	40.4	34.9	21.9	21.3	45.1 (38.4)	29.5	40.4	29.5	32.9 (32.0)

〔資料2〕 女性3人の雑談 (20分 1,121発話)

被調査者	1	2	3	4	5	6	7	8	平均
	区分作業者					参加者			
	a	b	c	d	e	E	G	O	
被調査者の区分数	11	13	34	26	12 (13)	23	14	18	18.9 (19.0)
1区分平均発話数	101.9	86.2	33.0	43.1	93.4 (86.2)	48.7	80.1	62.3	68.6 (67.7)

注1 小数点第二位以下四捨五入。

注2 ( ) 内の数字は、小区分を含めた区分数と1区分平均発話数を示す。

両方を区切った被調査者1～5（区分作業員 a～e）の結果を見ると、被調査者1と被調査者5はどちらの資料でも区分数が平均より少なく、被調査者3と被調査者4はどちらの資料でも区分数が平均より多い。話段の認定は被調査者によって傾向がある。

次に、「大話段」、「話段」、「小話段」の認定をした。（【表2】を参照。）〔資料1〕は大話段8、話段16、小話段21に、〔資料2〕は大話段2、話段9、小話段14に分けられた。

## 5.2. 本稿で見られた話題展開機能

本稿は、日本語の雑談の会話教育において、話題開始の文型を学習者に提示するために、話題展開機能の分析をし、話題開始の型を整理することを目的としている。佐久間（2002）の「文脈展開機能」の分類を使って、話題展開を分析する。

【表3】は、〔資料1〕、〔資料2〕の話題展開機能を集計したもの、【表4】は〔資料1〕、〔資料2〕に見られた話題展開機能の一覧である。ほとんどが話段開始部<sup>10)</sup>の文脈展開機能で、終了部の話題展開機能は【表3】では（ ）内に示した。【表4】を見ると、〔資料1〕の[10-3]にはb5とb7という話題展開機能が重複している。このように、1つの開始部が複数の話題展開機能を示す場合もあった。

【表3】によると、話題継続機能のうち、「b1話を重ねる機能」、「b2話を深める機能」、「b3話を進める機能」、「b4話をうながす機能」は大話段、話段には見られず、「b1話を重ねる機能」、「b3話を進める機能」、「b4話をうながす機能」は小話段にだけ見られた。「a2話を再び始める機能」も〔資料1〕、〔資料2〕の小話段に6箇所ずつ見られるが、どちらも半数の3箇所が話段開始部と重複しているものである。話題継続機能のうち、「b5話を戻す機能」、「b6話をささむ機能」、「b7話をそらす機能」、「b8話をさえぎる機能」、「b9話を変える機能」、「b10話をまとめる機能」が元の話とは違う話をする機能であるのに対し、b1～b4は前の話への関連性が高い機能であることによるものと思われる。

例1は、男性2人の雑談である〔資料1〕話段[7]の一部分である。発話された提題表現は[ ]で括り、略題表現、助詞の省略は《 》を付して補い、省略された提題表現の言語形式をカタカナで記した。話段[7]開始部では、426 U「あー、これ《ッテ》、《俺達モ》使ってたじゃん。」という確認要求<sup>11)</sup>で「これ（中国語の教科書）」が話題として取りあげられている。小話段[7-2]では、中国語の隣に置いてあった資格試験の本が話題として取り上げられ、話題が資格の話に移っている。[7-1]と[7-2]の話題は、勉強という共通点を持つ話題であり、1つの話段に認定できる。話段[6]「部屋」と話段[7]「勉強」は、関連がないようにも思われるが、部屋の中にあった教科書・参考書が話題となっているため、「部屋」という共通点を持っている。よって、話段[6]と[7]を1つの大話段と認定した。

### 例1 〔資料1〕

- [6] 422 F 彼女が《部屋ヲ》掃除とかしないと、  
 [6-2] 423 F 《Uハ》《部屋ヲきれいにするのガ》無理でしょ。  
 424 U うん。  
 425 ー (2)

- 7 426 U あー、これ《ッテ》、《俺達モ》使ってたじゃん。
- 7-1 427 F うん？
- 428 F 《Uハ》嫌なこと《を》言うな。
- 429 F 《Uハ》嫌な思い出《を》思い出さすな。
- 430 U 《Fハ》《中国語ガ》嫌なの？
- 431 F だって、落ちたもん、俺《ハ》、チャイ語《ガ》。
- 432 U あ、《Fハ》そうだっけ？
- 433 F ああ。
- (略)
- 450— (13)

- 7-2 451 U なんか、Vちゃん《も》、いろいろ勉強してるな。
- 452— (3)
- 453 U |鼻をすする音|
- 454 U やっぱ、《俺モ》中小企業診断士《ヲ》取るか。

話段7の開始部426 Uは、被調査者7人が区分を指摘している。話段6の終了部422 F～425—の提題表現「彼女《ガ》」、「掃除《とか》」、叙述表現「しないと」、「無理でしょ？」から、話段6は「部屋」の話題だとわかるが、426 U「これ」という指示表現を用いて、直接手で中国語の教科書を指し示し、話題を中国語に変えている。このように、話題として取り上げられるものがその場に存在し、かつ話題が前の話段の話題と全く関係がない場合は、話題が変わったことを認識しやすい。

例2は、先行話段の終了部で言及されたものが、後続話段の話題として提示されている例である。小話段5-1は、「ディズニーランド」について話しているが、「ディズニーランド」という語句の初出は228 Uの波線部である。さらに、小話段4-2の内部を見ると、提題表現215 U「映画《 》」、217 F「ポップコーン《 》」、227 U「ポップコーン《 》」が先行発話の叙述表現の語句を話題に取り上げていることがわかる。発話215 Uと227 Uは「～たら」という節全体で話題を提示する提題表現である。本稿では、提題表現「《 》」、「《 》」は、小話段よりも小さい話題を取り上げる例だけが見られた。これらは小さい話題を取り上げる表現だと思われる。

#### 例2 [資料1]

- 4 213 F で、だいたい月に1回ぐらい、俺《ハ》、映画館に行ってるから。
- 4-2 214 F (で//、だいたい。)
- 215 U 映画《つつつたら》、
- 216 U やっぱ、ポップコーンだね。
- 217 F ポップコーン《だって》、
- 218 F 蜜がけポップコーンだよ、いつも。
- (略)

【表2】話段認定の結果

〔資料1〕F、Uの雑談（20分、767発話）

大話段	話段	小話段
I 談話の開始	1 談話の開始 [108]	1-1 テニススクール [40]
		1-2 飲食開始③ [14]
		1-3 談話の開始④ [50]
		1-4 2人の戸惑い③ [4]
II 日焼けと旅行	2 日焼け⑧ [39]	
	3 海外旅行⑧ [37]	
III お菓子	4 お菓子⑧ [55]	4-1 ドンタコス⑧ [23]
		4-2 ポップコーン⑥ [32]
IV テーマパーク	5 テーマパーク⑦ [161]	5-1 デイズニerland⑦ [44]
		5-2 デイズニースー⑤ [18]
		5-3 ユニバーサルスタジオ⑥ [62]
		5-4 鼻炎④ [9]
		5-5 映画とアトラクション⑤ [28]
V 部屋	6 部屋⑦ [25]	6-1 Wの部屋⑦ [14]
		6-2 Uの部屋④ [11]
	7 勉強⑦ [42]	7-1 中国語の思い出⑦ [25]
		7-2 資格⑥ [5]
		7-3 録画への意識⑥ [12]
VI 休日	8 Uの休日⑧ [46]	
	9 Uの彼女⑧ [48]	
	10 日焼け⑧ [70]	10-1 日焼け⑧ [20]
		10-2 海での過ごし方③ [32]
		10-3 日焼けする体質④ [18]
11 Uの休日の過ごし方⑧ [26]		
VII Fの免許と社員証	12 Fの免許証⑦ [17]	
	13 Fの会社⑥ [30]	13-1 Fの社員証⑥ [18]
13-2 Fの勤務地⑤ [12]		
VIII 休日と友人達の話	14 休日の過ごし方⑧ [19]	
	15 トイレ⑧ [23]	
	16 友達との連絡⑧ [21]	

〔資料2〕E、G、Oの雑談（20分、1121発話）

大話段	話段	小話段
I 開始と談話収録について	1 談話の開始 [186]	1-1 部屋への案内 [43]
		1-2 ビデオの使いみち [45]
		1-3 映像の予想④ [29]
		1-4 前日の収録失敗談③ [45]
		1-5 飲み物の用意とテーマ④ [24]
2 日本語教育⑧ [81]		
3 大学の教科書⑧ [31]		
4 3人の会話開始⑧ [55]	4-1 W退室⑧ [45]	4-2 飲食開始と話題探し③ [10]
		5 友人達と結婚⑧ [317]
II 友人達と結婚	5 サークルの友人達⑧ [317]	5-1 Iの結婚式⑧ [75]
		5-2 ゴールデンウィークの飲み会⑦ [27]
		5-3 Aの話③ [75]
		5-4 飲み会連絡の経緯④ [66]
		5-5 Iの結婚式⑥ [74]
6 北海道の結婚式⑧ [184]		
7 Eの携帯電話⑦ [84]	7-1 携帯での会話⑦ [18]	7-2 携帯ストラップ⑤ [66]
		8 北海道の結婚式⑧ [44]
9 周りの結婚状況⑧ [139]		

注1 タイトルの右側の丸数字は、区分指摘をした人数（調整したもの）、[ ]内の数字は発話総数を表す。

注2 談話の開始部は区分指摘ができないため、区分指摘人数は記入しない。

注3 〔資料1〕〔資料2〕とも、Wは筆者を示す。〔資料2〕のIとAは、雑談の参加者3人の共通の友人を示す。

- 227 U ポップコーン っていったら、  
 228 U なんか、ディズニーランドのなんか、  
 229 ー (2)  
 230 U なんかちょっと、おいしいポップコーン。  
 231 F 《ディズニーランドのポップコーンッテ》 ハニーとかの？  
 232 U ハニー？  
 233 U 《ディズニーランドのポップコーンハ》なんか、コンソメ味とかの。  
 234 F そんなの《ハ》、ねえよ。  
 235 U 《コンソメ味ハ》あったよ。  
 236 U 《ディズニーランドのコンソメ味のポップコーンハ》なんか、振るやつ。  
 237 ー (4)  
 238 U 確か。  
 239 F 《コンソメ味のポップコーンハ》ないない。

- 5 240 F 俺《ハ》、ディズニーランド《ハ》、マニアだから。  
5-1 241 U 俺も、結構《ディズニーランドニ》行ってるよ。  
 242 F ばっ(か)、《俺ハ》回数が違うよ。  
 243 U 《Fハ》何回行ったよ？  
 244 F 《俺ハ回数ガ》桁違いだよ。  
 245 F 《俺ハ回数ガ》50回くらい、もっとかな。

話段区分調査では、227 U 「ポップコーン っていったら」の直前に切れ目を入れて「ディズニーランドのポップコーン」などのタイトルをつけた被調査者が2名いた。このことから、小話段内部でも話題が展開し、徐々に話題が変わっていく場合もあることがわかる。佐久間(2003: 110)は、このような次に新しい話題を導くための話段を「つなぎの段」と称している。本稿の例2も、227 U～239 Fの部分が小話段 4-2 と小話段 5-1 をつなぐ役割を持っており、「つなぎの段」といえる。

本稿の分析資料では、例3のように、次に何を話題にするかが話題になっている小話段が2例([資料1] 1-4 と [資料2] 4-2)見られた。雑談することを依頼されているために、参加者同士が「話さなければならない」と思っていたことがわかる。このような次の話題を探す話段も、話段と話段の間をつなぐ「つなぎの段」と考えることができるだろう。雑談では、参加者全員が話題を開始・継続・終了して話題を作り上げているため、「つなぎの段」は多く見られるのではないかと思われる。

### 例3 [資料2]

- 4-2 344 E じゃあ、ちょっと、《あたしハ飲み物ヲ》もらっていいかな？  
 345 G うん、《わたし達ハ飲み物ヲ》頂こう。  
 346 E 《あたしハ》喉《ガ》、渴いちゃった。  
 347 ー (2)  
 348 E あー。  
 349 E なんか、《部屋ガ》しーんと//してるね、//結構。

【表3】〔資料1〕、〔資料2〕の話題展開機能の集計

話題展開機能	定義	〔資料1〕			〔資料2〕		
		大話段	話段	小話段	大話段	話段	小話段
A 話題開始機能							
a1 話を始める機能	話を最初から始める。	1	1	1	1	1	1
a2 話を再び始める機能	前と違う話を途中から始める。	4	7	6	1	6	6
B 話題継続機能							
b1 話を重ねる機能	前の話を繰り返し、同じ話を続ける。	0	0	0	0	0	2
b2 話を深める機能	前の話を言い換えて説明する。	0	0	0	0	0	0
b3 話を進める機能	前の話の結果や反対の話を述べる。	0	0	1	0	0	1
b4 話をうながす機能	話が先へ進むように相手を促す。	0	0	4	0	0	1
b5 話を戻す機能	一度それた話を再び元の話に戻す。	1	3	2	0	1	1
b6 話をささむ機能	前の話に関連する別の話をさし込む。	1	2	2	0	1	0
b7 話をそらす機能	前の話を避けて、違う話をする。	0	0	2	0	0	0
b8 話をさえぎる機能	相手の話をつづさせないようにする。	0	0	0	0	0	0
b9 話を変える機能	前の話を切り上げて、違う話をする。	1	3	4	0	0	2
b10 話をまとめる機能	前の話をまとめて、しめくくる。	0	(2)	0	0	0	(1)
C 話題終了機能							
c1 話を終える機能	話をすべて完了する。	0	0	0	0	0	0
c2 話を一応終える機能	前の話を途中で切り上げる。	0	0	(2)	0	0	(1)
	開始部数 (終了部数)	8	16(2)	22(2)	2	9	14(2)
	/ 話段数	/8	/16	/21	/2	/9	/14

注1 佐久間まゆみ (2002: 168) 表 3.2 「接続表現の文脈展開機能による分類」参照。

注2 「大話段」の開始部は、「話段」と「小話段」の開始部と重複することがあるが、重複するものも、それぞれ集計した。

注3 1つの話段が複数の話題展開機能を持つことがある。

注4 ( ) 内の数字は、終了部に見られた話題展開機能の話段数を示す。

350 G うん。

351 O うん。

352 G 《わたし達ハ》内容《ヲ》、話さなきゃ。

353 O [笑い] 確かに。

5 354 E え、みんな《ハ》、15日《ノ結婚式ニ》行くの？

例4は、例3の続きの部分で、小話段[5-1]「Iの結婚式」という話題から、[5-2]「ゴールデンウィークの飲み会」の話題に変えている。小話段[5-1]と小話段[5-2]にはあまり関連がないため、小話段[5-2]は「話題開始機能」を持っている。そして、小話段[5-3]、[5-4]で「ゴールデンウィークの飲み会」の話題を継続している。しかし、小話段[ ]は「b5話を戻す機能」を持つ小話段で、参加者Eが「Iの結婚式」の話題に戻している。話段II (話段[5]、小話段[5-1]) 開始部で「Iの結婚式」の話題を提示し

た参加者Eは、ゴールデンウィークの飲み会でIの結婚の話を知ったことを述べている。(波線部参照。) 605 E 「そこで」の指示表現が示すのは、「ゴールデンウィークの飲み会」である。小話段[5-5]で再び「Iの結婚式」の話題が取りあげられることによって、「Iの結婚式」と「ゴールデンウィークの飲み会」に関連する小話段が結びつけられている。小話段[5-5]は、話段[5-1]と強く結びつき、話段[5]全体をまとめる働きを持っていると考えられる。

## 例4 [資料2]

- 
- [5] 354 E え、みんな《ハ》、15日《ノ結婚式ニ》//行くの?
- [5-1] 355 O 《私ハチョコレートヲ》もーらい。
- 356 G I《ノ結婚式》?
- 357 E うーん。
- 358 G 《私ハ》いか、行けない。
- 359 G だって、《私ハ》ちょっと、お金的に問題ガ。
- 360 G 《私ハお金ガ》厳しいのだ。
- 361 E あたしも、それもあるなあーと思って。
- 362 O え、《2人ハ》《Iの結婚式ニ》行けないの?
- (略)

- 
- [5-2] 429 E なんか、この間、あの一、《飲み会ハ》27日だよな?
- 430 E あの一、Oと一、
- 431 G あっ。
- 432 E Vちゃんたちと一、
- 433 G えっ。
- 434 O はっ。
- 435 E 《飲み会ハ》29日だっけ。
- 436 E 《飲み会ハ》何日?
- 437 O 《それハ》なんの話?
- 438 E 《私たちハ》ゴールデン・ウィークの時に、会ったじゃん、1回。
- (略)

- 
- [5-5] 597 E でも、その時//に一、
- 598 O // {笑い} 《Gガ》怒ってる、怒ってる。
- 599 G {笑い}
- 600 E 《あたしハみんなニ》会って、
- 601 E あたしはあの一、なんだっけ。
- 602 E あの一、I君の、
- 603 G うん。
- 604 E 《あたしハ》き、あの、その、結婚の話を知らなくて、
- 605 E 《あたしハI君ノ結婚ノ話ヲ》そこで聞いたのね。

【表4】本稿に見られた話題展開機能

〔資料1〕F、Uの雑談（20分、767発話）

大話段	話段	小話段
I 談話の 開始 【a1】	1 談話の開始 【a1】	1-1 テニススクール 【a1】
		1-2 飲食開始 【a2】
		1-3 談話の開始 【a2 c2】
		1-4 2人の戸惑い 【b3】
II 日焼け と旅行 【a2】	2 日焼け 【a2 b10】	
	3 海外旅行 【a2】	
III お菓子 【a2】	4 お菓子 【a2】	4-1 ドンタコス 【a2】
		4-2 ポップコーン 【b7】
IV テーマ パーク 【b9】	5 テーマパーク 【b9】	5-1 デイズニールランド 【b9】
		5-2 デイズニーシー 【b6】
		5-3 ユニバーサルスタジオ 【b6】
		5-4 鼻炎 【a2 c2】
		5-5 映画とアトラクション 【b5】
V 部屋 【a2】	6 部屋 【a2】	6-1 Wの部屋 【a2】
		6-2 Uの部屋 【b2】
	7 勉強 【a2】	7-1 中国語の思い出 【a2】
		7-2 資格 【b9】
7-3 録画への意識 【b4】		
VI 休日 【a2】	8 Uの休日 【a2】	
	9 Uの彼女 【b6 b10】	
	10 日焼け 【b9】	10-1 日焼け 【b9】
		10-2 海での過ごし方 【b4】
		10-3 日焼けする体質 【b5, b7】
11 Uの休日の過ごし方 【b5】		
VII Fの免許 と社員証 【b6】	12 Fの免許証 【b6】	
	13 Fの会社 【b9】	13-1 Fの社員証 【b9】
13-2 Fの勤務地 【b4】		
VIII 休日と 友人達 の話 【b5】	14 休日の過ごし方 【b5】	
	15 トイレ 【a2】	
	16 友達との連絡 【b5】	

〔資料2〕E、G、Oの雑談（20分、1121発話）

大話段	話段	小話段
I 開始と 談話収 録につ いて 【a1】	1 談話の開始 【a1】	1-1 部屋への案内 【a1】
		1-2 ビデオの使いみち 【b4】
		1-3 映像の予想 【b9】
		1-4 前日の録画の失敗談 【b1】
		1-5 飲み物の用意とテーマ 【b9】
2 日本語教育 【a2】		
3 大学の教科書 【a2】		
4 3人の会話開始 【a2】	4-1 W退室 【a2 c2】	4-2 飲食開始と話題探し 【a2】
		5-1 Iの結婚式 【a2】
II 友人達 と結婚 【a2】	5 サークルの友人達 【a2】	5-2 ゴールデンウィークの飲み会【a2】
		5-3 Aの話 【b1】
		5-4 飲み会連絡の経緯 【b3 b10】
		5-5 Iの結婚式 【b5】
		6 北海道の結婚式 【a2】
7 Eの携帯電話 【a2】	7-1 携帯での会話 【a2】	
	7-2 携帯ストラップ 【a2】	
8 北海道の結婚式 【b5】		
9 周りの結婚状況 【b6】		

注1 【 】は、開始部の話題展開機能を表す。【b5, b7】はb5とb7の両方の機能を持つことを示し、【a2|c2】のように「|」があるものは、【開始部の話題展開機能|終了部の文脈展開機能】であることを示す。

606 G

うーん。

例 5 の話段 [8] の波線部は、例 4 の小話段 [5-5] と同じく、「b5 話を戻す機能」を持つものである。

## 例 5 [資料 2]

- 
- [6] 671 E そう、それでさ、あたし《ハ》、あの、5月のゴールデンウィークに、北海道に、  
友達の結婚式が<sup>が</sup>あって、  
672 E 《あたしハ北海道ノ結婚式ニ》行ってきた//のね。  
673 G うん。  
(略)
- 
- [7] 855 G あ、携帯《ガ》鳴ってる。  
856 E あ、あたし《ノ携帯ガ鳴ってる》?  
857 G うん。  
858 — (3)  
859 E いいのかな、《あたしハ携帯電話ニ》出ちゃって。  
860 O 《Eハ電話ニ出て》いいんじゃない//ーい?  
861 G うーん。  
(略)
- 
- [8] 939 E そう、でもねー、  
940 E でも、北海道の話に戻っていいかな。  
941 G うん。

例 5 では、突然携帯電話に着信があり、北海道の結婚式の話題が途切れてしまったため、波線部 939 E ~ 940 E のような表現を用いて、話段 [6] 「北海道の結婚式」の話し手 E が話題を修正し、北海道の結婚式の話に戻している。本稿では、このような話題の展開を直接示すメタ言語表現は例 5 話段 [8] の 1 例しか見られなかった。小話段の話題を戻す場合よりも、大話段や話段の話題を戻す場合の方がメタ言語表現を用いている可能性がある。各話題展開機能と型を整理し、話題展開の方法として考察することは、今後の課題としたい。

## 5.3. 話題開始の型

本節では、本稿の中で最も話題展開機能の話段数が集まった「a2話を再び始める機能」には、どのような型があるかを分析し<sup>12)</sup>、【表 5】の一覧表に示した。「大話段」、「話段」、「小話段」の開始部が重複するものは、一番大きいレベルの話段の開始機能を持つものとみなした。「a2話を再び始める機能」は、2資料を合わせて「大話段」に 5 例、「話段」に 8 例、「小話段」に 6 例見られた。

「a2話を再び始める機能」がある開始部では、疑問表現（出現率 47.4%）、提題表現の

【表 5】 雑談の話題開始の型一覧表

「a2 話を再び始める機能」の例				疑問	文	助詞略	略題	提題表現形式	接続	指示	倒置	問投詞・感動詞	参加者出入り
1	大	資 1	II	よく見ると、お前(ハ)、(肌ガ)赤いな。	現象文	ハ	肌ガ						
2	大	資 1	III	おいしいね、これ(ハ)ね。		ハ	ネ			これ	提題		
3	大	資 1	V	部屋を物色したいね。				ヲ～したい					
4	大	資 1	VI	でも、でも、そうか、(休みハ)1日なのかな。→失敗			休みハ		でも、でも				
5	大	資 2	II	みんな(ハ)、15日(ハ)行くの?	判定	ハ、ハ						え	
6	話	資 1	3	こないだ、(俺ハ)バリ(ニ)行ったって言ったじゃん。	確認	ニ	自分	～ッテ言ったじゃん。					
7	話	資 1	7	あー、これ(ッテ)、(俺らモ)使ってたじゃん。	確認	ッテ	自分達			これ		あー	
8	話	資 1	15	ね、(俺ハ)トイレとか(ニ)行ったら、だめなのかな。		ニ	自分	トカ行ったらだめなのかな				ね	
9	話	資 2	2	あ、Wちゃん(ハ)、(大学でやってるノハ)心理学じゃないよね。	確認	ハ	直後の発話					あ	
10	話	資 2	3	あたし(ハ)さ、大学の教科書(ハ)、一切買わなかったタイプなんだよねー。		ハ、ハ		サ、～なんだよね					
11	話	資 2	4	えっ、あれ、(Wちゃんハ)いなくなっちゃうの?	判定		相手					えっ、あれ	○
12	話	資 2	6	そう、それでさ、あたし(ハ)、あの5月のゴールデンウィークに、北海道に、友達の結婚式があって、行ってきたのね。	存在文	ハ		サ、二行ってきた、ガあって、	それでさ			そう、あの	
13	話	資 2	7	あ、携帯(ガ)鳴ってる。	存在文	ガ		ガ鳴ってる				あ	
14	小	資 1	1-2	いただきまーす。									
15	小	資 1	1-3	で、とりあえずね、30分ぐらい話しててもらっていい?	判定				で				
16	小	資 1	5-4	(Uハ)鼻炎?	判定		相手						
17	小	資 2	4-2	じゃあ、ちよっと、(あたしハ)飲み物ヲもらっていいかな?	確認		自分、飲み物ヲ		じゃあ				○
18	小	資 1	5-2	なんか、この間、あの一、(飲み会ハ)27日だよ? →失敗	確認		飲み会ハ			この間		なんか、あの一、	
19	小	資 1	7-2	あ、キティちゃん。		名詞止							
合計				9	4	12	11	9	5	3	1	11	2
内訳				確 5 判 4	存 2 現 1 名詞 1	ハ 8 ニ 2 ッテ 1 ガ 1	自分 4 相手 2 暗黙 4 直後 1	サ 2 ガ 2 ヲ 1 トカ 1	サ 2 ッテ 1 ネ 1 ニ 1	でも 2 で 1 それでさ 1 じゃあ 1	これ 2 この 1	提 1	あ 2 あの一 あれ 1 え 1 えっ 1 そう 1 なんか 1
開始部での出現率 (%)				47.4	21.1	52.6	52.6	36.8	21.1	15.8	5.3	42.1	10.5
出現する開始部数 / 開始部数				9/19	4/19	10/19	10/19	7/19	4/19	3/19	1/19	8/19	2/19

注 1 大=大話段、話=話段、小=小話段を示す。  
 注 2 倒置欄の「提題」とは、提題表現が倒置されていることを示す。  
 注 3 略題欄の「暗黙」とは、参加者の暗黙の了解で成立する略題であることを示す。

助詞の省略 (52.6%)、略題表現 (52.6%)、問投詞・感動詞 (42.1%) が多く見られた。特に、提題表現の助詞の省略は、「小話段」には見られなかったが、「大話段」、「話段」の開始部 75% 以上に見られた。雑談では、話題を開始するとき、話題を取り上げる提題表現を省略する傾向があり、これは雑談の話題開始の型の 1 つである。4 割以上の開始部に見られる疑問表現も、話題開始の型といえるだろう。出現率は 15.8% だが、コ系の指示表現が 3 例見られた。佐久間 (2002: 183) が「文章・談話における段頭のコ系の指示詞を含む提題表現には、新しい話題を提示する機能があり」と述べているが、本稿でも、雑談の場にあるものを話題に取り上げ、指し示すのに指示表現「これ」を用いた例が 2 例あった。

また、例 6、例 7 のように、話題の開始に失敗した例も 2 例見られた。

## 例6 [資料1]

- VI 468 F なに、でも、でも、そうか、《Uハ休みガ》1日なのか。  
 469 F 《Uハ》常に、疲れは残るね。  
 470 U なにが？  
 471 F 休み。

## 例7 [資料2]

- 5-2 429 E なんか、この間、あの一、《飲み会ハ》27日だよな？  
 430 E あの一、Oと一、  
 431 G あっ。  
 432 E Vちゃんたちと一、  
 433 G えっ。  
 434 O はっ。  
 435 E 《飲み会ハ》29日だっけ。  
 436 E 《飲み会ハ》何日？  
 437 O 《それハ》なんの話？  
 438 E 《あたし達ハ》ゴールデン・ウィークの時に、会ったじゃん、1回。

例6と例7は、開始部で略題表現を用いたため、聞き手が何の話題かわからなかった例である。例6の470 U「なにが？」、例7の437 O「なんの話？」のように、相手が開始した話題を確認する表現の類型も、話題展開の型として必要なものだと考える。

## 6. 結論と今後の課題

本稿では、親しい友人同士の雑談の談話2資料を用いて、話段区分調査を行ない、「大話段」、「話段」、「小話段」の認定を行なった。佐久間(2002)の「文脈展開機能」に基づき、どのような話題展開機能が見られるかを考察した結果、「話題継続機能」のうち、「b1話を重ねる機能」、「b2話を深める機能」、「b3話を進める機能」、「b4話をうながす機能」は大話段、話段には見られず、「b1話を重ねる機能」、「b3話を進める機能」、「b4話をうながす機能」は小話段にだけ見られた。本稿では、提題表現「っていったら」、「つつたら」は、小話段の話題よりも小さい話題を取り上げている例のみ観察できた。「つなぎの段」が見られたのも、雑談の話題展開の特徴ではないかと思われる。

本稿では、話題展開の型として「話題開始の型」のみを分析した。「a2話を再び始める機能」を持つ開始部では、疑問表現、提題表現の助詞の省略、略題表現、間投詞・感動詞の出現率が高く、特に、提題表現の助詞の省略は、「大話段」、「話段」の開始部75%以上で観察できた。雑談の話題開始の型として、話題を取り上げる提題表現の形式を省略する型、疑問表現で話題を取り上げる型が挙げられる。

今回は、型として提題表現を中心に扱った。提題表現以外の表現を含めた、総合的な話

題展開の方法を、話題展開機能別に提示することが今後の課題である。各話題展開機能別に型を分析し、類型化を進める研究は、日本語教育において会話の話題展開の文型を学習者に提示するために必要なのではないかと考える。

## 注

- 1) 『文化中級日本語Ⅰ・Ⅱ』には、初対面の場面や雑談の場面における前置きの方法、話題の探し方に関する項目が見られる。話題の展開をフローチャート化した練習もあるが、それらは初対面の場合や依頼、質問の場面における話題の展開を扱ったものであり、雑談の談話のものは見られない。
- 2) 南(1983)の「手がかり」は、(1) 表現された形そのもの、(2) 参加者、(3) 話題、(4) 言語的コミュニケーションの機能、(5) 表現態度(フリ)、(6) 使用言語、(7) 媒体、(8) 全体的構造の8種である。南(1987)の「手がかり」は、「談話の要素」として、(1) 言語表現そのもの、(2) 参加者、(3) 話題、(4) コミュニケーションの機能、(5) 表現態度、(6) 媒体、(7) 状況、(8) ネットワーク、(9) 文脈、(10) 非言語表現の10種と「談話の全体的構造の型」1種の計11種である。
- 3) 佐久間(1987:132)は、「文段の認定基準をみなし得る項目」として、「提題表現」以外に「叙述表現・文の種類の統括、接続語句・指示語、反復表現や省略表現等」を挙げている。
- 4) [資料1]は36分35秒、発話総数1,315発話の談話、[資料2]は42分20秒、発話総数2,377発話の談話であるが、長さの異なる談話の話段、小話段数を比較しやすくするため、各々開始部から20分間を分析対象として用いた。雑談の参加者には、使用の許可を得ている。
- 5) 文字化の方法は、ザトラウスキー(1993:別冊2-4)に従い、以下のような記号を用いた。  
 // //の後の発話が次の発話番号の発話と同時に発せられたことを示す。  
 ( ) 内の数字はストップウォッチで計った1秒以上の沈黙の長さを表す。  
 - 「-」の前の母音が長く延ばされていることを示す。  
 ? 疑問ではなく、イントネーションが上昇している箇所に記す。  
 。 1人の発話の文の終わりに「。」を記す。  
 、 1人の発話の文の途中は「、」で記す。  
 { } 非言語的な行動を表す。笑いは「{笑い}」のように記す。  
 [ ] 物音などは、「[ドアを開ける音]」のように記す。  
 ( ) 聞き取りにくい発話を( )内に記す。聞き取れない箇所には「(?)」をつける。  
 「」 引用内容が明らかに直接話法だとわかるものにだけ「」を付与する。
- 6) 鈴木(1995)の「内容区分調査」の方法を参考にした。「内容区分調査」は、「話段」を区分する調査であるので、本稿では「話段区分調査」と呼ぶことにする。本稿の調査では、雑談の参加者が話題をどのように認識していたかを調べるために、参加者にも調査をした。
- 7) 南(1987)の「単位認定の手がかり」や「話題開始部には「話を変える機能」「話を戻す機能」の接続表現、話段の終了部にはあいづちの繰り返しなど」が見られたという鈴木(1995:83)の指摘を話段の形態的指標の仮説として用いた。
- 8) ただし、以下の調整をした。  
 ①本稿では、あいづちや沈黙は前の発話に対する聞き手の反応であると解釈し、あいづち、沈黙は、すべて区分箇所の後ろに含むものとする。  
 ②「つなぎの話段」を区分するかしないかは被調査者によって異なるため、区分指摘人数が7、8人でない場合でも、話題のタイトルが一致していれば、「話段」として認定した。
- 9) 【表1】では、雑談の参加者を「参加者」、話段区分調査の協力を得た方々を「区分作業員」と呼び、区別する。区分作業員a～eは、[資料1]と[資料2]の両方の話段区分をしている。被調査者5(区分作業員e)は、下位区分を設けていたため、【表1】では( )内に小区分を含めた区分数と1区分平均発話数を示す。
- 10) 原則として「1文に相当する発話」を話段開始部、話段終了部と認定した。ただし、終了部があ

いづちの場合は、あいづちに対応する実質的発話も話段終了部を含め、沈黙の場合も前の実質的発話まで遡って、終了部を認定した。

- 11) 佐久間 (2003: 107) は、「疑問の提題表現の発話は、その応答の叙述表現の発話と対になって、複数の発話連鎖の形で段の統括機能を発揮するものが多い」と述べている。本稿でも疑問表現が提題表現の機能を持つと考え、提題表現と同じく□で示す。本稿では、「質問的表現」を「確認要求の表現」「判定要求の表現」「選択要求の表現」「説明要求の表現」に4分類している国立国語研究所 (1960: 109) を参考にして、確認要求も疑問表現に含めた。
- 12) 「a1 話を始める機能」は、談話資料の録画開始部に認定されるため、型の分析対象からは除いた。

## 参考文献

- 市川孝 (1978) 『国語教育のための文章論概説』教育出版
- 国立国語研究所編 (1960) 『国立国語研究所報告 18 話しことばの文型 (1) 一対話資料による研究一』国立国語研究所
- 佐久間まゆみ (1987) 「文段」認定の一基準 (I) 一提題表現の統括一『文藝言語研究 言語篇』11 筑波大学文芸言語学系
- (1990) 「文段認定の一基準 (II) 一接続表現の統括一」『文藝言語研究 言語篇』17 筑波大学文芸言語学系
- (1992) 「文章と文一段の文脈の統括一」『日本語学』11-4 明治書院
- (2002) 「3 接続詞・指示詞と文連鎖」野田尚史他著『日本語の文法 4 複文と談話』岩波書店
- (2003) 「第5章 文章・談話における「段」の統括機能」佐久間まゆみ編『朝倉日本語講座 7 文章・談話』朝倉書店
- ザトラウスキー, ポリー (1993) 『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察』くろしお出版
- 鈴木香子 (1995) 「内容区分調査による対話の『話段』設定の試み」『国文目白』34 日本女子大学国語国文学会
- 中井陽子 (2003) 「話題開始部で用いられる質問表現—日本語母語話者同士および母語話者／非母語話者による会話をもとに」『早稲田大学日本語教育研究』第2号 早稲田大学大学院日本語教育研究科
- 南不二男 (1981) 「日常会話の話題の推移—松江テキストを資料として」『方言学論叢 1—方言研究の推進』三省堂
- (1983) 「談話の単位」『日本語教育指導参考書 11 談話の研究と教育 I』大蔵省印刷局
- (1987) 「談話行動論」『国立国語研究所報告 92 談話行動の諸相—座談資料の分析』三省堂
- 文化外国語専門学校 (1994, 1997) 『文化中級日本語 I・II』凡人社
- 謝辞 本稿は、修士論文「日本語の談話における話題展開の型の研究」(未公刊)の一部を加筆・修正したものです。執筆に当たり、日本語教育研究科佐久間まゆみ教授に御指導を賜りました。深く感謝申し上げます。